



しがのふるさと支え合いプロジェクト さとののかぜ通信

Vol.2号
2021.10月



2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です



「パソナ・パナソニック ビジネスサービス株式会社」 〜甲賀市大澤にて〜

真つ白な雲が広がる青い空に、蟬の合唱、深い緑の香りが漂う真夏の日。7月20日、甲賀市土山町大澤の茶園で、「大澤集落協定都市農村交流グループ」と「パソナ・パナソニックビジネスサービス株式会社」以下（PBS）による協働活動が行われました。大澤地区は、鈴鹿山系のふもとと野洲川上流に位置する、緑豊かな自然あふれる地域です。

「しがのふるさと支え合いプロジェクト」に登録していた両者は、県のマッチングを受けて「農地の有効活用」や「都市農村交流」で協定を締結することに合意され、昨年10月

より月に1回の活動を実施されています。

この日は、果樹園のまわりのイブキジャコウソウの除草や、水やりの作業を行いました。ジャコウソウは、雑草が広がるのを抑えるだけでなく、鹿に食べられないための獣害対策にもなるそうです。今後花を咲かせて、斜面全体に広がっていくのが楽しみです。

PBSの嶋本さんは「大自然の中で、心温かい大澤地区の皆さんと一緒に作業をすると、社員同士の会話がはずみ、また新たな発見もあり、企業にとつてのメリットがあります。」と嬉しそうです。そして今後も地道に後世に残る事をやっていきたい、という意気込みを笑顔で話して頂きました。

大澤地区の皆さんも、自分たちだけではできない作業が楽しくはかどることに感激し、また協働活動以外にも様々な形で交流が進む



「イブキジャコウソウ」



「パソナ・パナソニック
ビジネスサービス株式会社」
嶋本 哲也 氏



「大澤集落協定
都市農村交流グループ」
代表 藤本 泰治 氏

ことが嬉しいと話しておられました。お互いが感謝しながら支え合う、素敵な関係を築き上げられています。

「次世代の管理負担を軽減し、持続的な農村にしたい」という目標を立て、お茶畑から果樹園へ移行するという事で始まった活動ですが、「都市から人が集まり、交流を通じて常に新しい風が通う農村にしたい」という将来のビジョンを抱かれています。地元の若い人々を中心に、他の地域の人も巻き込み、多くの人たちが集う果樹園となることでしょう！



「滋賀県立大学近江楽座 座・沖島」 〜近江八幡市沖島にて〜

夏真っ盛りの7月22日。堀切港から船で10分、「日本で唯一一湖に人が暮らす」沖島で、「沖島町離島振興推進協議会」（以下協議会）と「滋賀県立大学近江楽座『座・沖島』（以下座・沖島）」の協働活動が行われました。島内には、車も信号もなく、ゆったりとした時間が流れており、リラックスした気分を味わえます。そのような環境のもと、両者は令和元年に協定を締結し、共に島の課題解決に取り組んでいます。

今回は、耕作放棄地を開墾して、^{けもの}獣に食べられない青パイヤやレモンを植えた畑の草刈、そしていつでも農機具が取り出せるよう、物置を畑の中に設置する作業を行いました。座・沖島のメンバーは草を鎌で刈るのも、手慣れた様子。汗だくになりながらも、湖岸で休憩を取りつつ、楽しそうに作業に励みます。物置づくりは、設計図とにらめっこしつつ、協力して取り組みました。



「滋賀県立大学近江楽座
〜座・沖島〜」
はるき
代表 西陽来 氏

「沖島町離島
振興推進協議会」
小川 文子 氏

作業後は、協議会の小川さんからの美味しいトウモロコシおにぎりと、冷えた果物の差し入れで癒されました。座・沖島のメンバーも第2のふるさとに帰ってきたように、居心地が良さそうです。座・沖島では、青パイヤの漬物や島レモンサワーなどの商品開発も計画しておられます。協働活動を通じて、関係人口が増えていくよう沖島の土台作りをしていきたい！という熱い思いが伝わってきました。また「活動を通して、学生生活では経験できない様々な人との交流でコミュニケーション能力もあがり、人前で話すのも慣れてきました。」と活動を通して変わった点をお話頂きました。

協議会の皆様も、「座・沖島さんは、祭りや運動会も盛り上げてくれ、作業もしっかりしてください。本場に助かっています！沖島を元気にしてくれることを期待しています！」と、嬉しそうにおっしゃっていました。心温まる、素敵な関係がここ沖島にもありました。

「しがのふるさと支え合いプロジェクト」は、滋賀県の農山村の活性化や新たな価値の創造を目的に、集落等と企業や大学等が協働活動を行うプロジェクトです。今このプロジェクトをきっかけに農山村と都市の間に新たな風が吹き始めています。通信ではこれらの新しい風をお届けします。

HPは
こちら



Facebook
はこちら



「滋賀県立長浜農業高等学校」
〜米原市小泉にて〜

夏の暑い日差しが差す8月2日、「伊吹くらしのやくそう倶楽部(米原市)」と「長浜農業高校園芸科野菜分野(長浜市)」の初めての協働活動が行われました。両者は『しがのふるさと支え合いプロジェクト』の登録をきっかけにマッチングを受け、今年度より連携がスタートしました。



「棚田の草刈り」



「マコモダケの収穫」



「長浜農業高校と伊吹くらしのやくそう倶楽部のみなさん」

です。葉はしめ縄やむしろの材料として古来より重宝されてきました。
3年生12人の生徒さん達は普段は果樹や野菜をメインに扱っているのですが、授業で田んぼに入るのはこの日が初めて。はじめは田んぼのぬかるみに足をとられ、四苦八苦の様子でしたが、泥だらけになりながらも作業のコツをすぐに飲み込んでいきます。さすが農業高校生。除草のスピードが上がってきました。その後、刈り払い機による草刈りやマコモの葉の刈り取りなど盛りだくさんですが、汗だくになりながら楽しそうに作業をされていました。これには伊吹くらしのやくそう倶楽部の嶋野さんも感心されていました。
小泉地区の田んぼは一枚の面積が小さく、段々の斜面が続きます。午前中いっぱい作業が続いたその後、嶋野さんからキンキンに冷えたタオルとアイスの差し入れがありました。生徒のみなさんの頑張りが労らわれました。長浜農業高校の松井仙一郎先生は、「農業振興や農業経営も含めて力になりたい」とのこと。これからはじまるマコモダケの加工品開発に期待がふくらみました。

「認定特定非営利活動法人つどい」
〜長浜市布勢町にて〜



「認定特定非営利活動法人つどい」
理事長 川村 美津子 氏

ほのかな甘みの柔らかなハスの香りが広がる、ここは長浜市布勢町の「あいのたにロータスステーション」。ちょうど満開時期である8月上旬。全国的に見ても大変珍しく見渡す限りのハスの花の見頃ということで観光客が多く訪れていました。

運営するのは「認定特定非営利活動法人つどい」のみなさん。高齢者や障がい者の皆さんとともに地域の活性化に取り組んでおられます。ハス畑の隣に加工所があり、ハスの花を使ったジャムやジュース、かき氷などのスイーツ類が充実。ハスの花の天ぷらという変わり種も食べることができ、見えて楽しみ、香りを楽しみ、舌で味わう、三拍子のハスづくしの施設です。

地域の方々が施設に訪れるたび、元気な挨拶を代表の川村さんが投げかけていました。その様子から川村さんの温かくてパワフルな人柄を感じ取ることができ、訪れる人にとって、居ごこちのいい場所になっているようでした。

耕作放棄の棚田をどうにかしたいと考え



「ハスの花のジャムを使ったかき氷」

ていたときに、名古屋の知人からの「ハスの香水を作りたいから栽培をしてくれないか」という声かけをきっかけにハスを育て始めたと言語る川村さん。当時から拠点を置いていたこの地に5年前に耕作放棄地を開墾してハスの花を植えていったそう。1年目は田んぼ2枚分だったハス畑も今では3haに。また、令和2年度には布勢町自治会とも正式に連携協定を結び、地域の住民のサポートもいただきつつ、ハス畑を維持されています。今では、ハス畑が布勢町のみなさんの散歩コースにもなっているそうです。地域と調和しているつどいのみなさんの様子は、まさしくハスのようにしっかりと根を張り、立派に花を咲かせているようでした。



「布勢町自治会とつどいのみなさん」



【事業実施主体】 滋賀県農政水産部農村振興課
〒520-8577 滋賀県大津市京町4丁目1番1号
TEL: 077-528-3963

【運営事務局】 株式会社パソナ農援隊
〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田1-10-1 梅田DTタワーB1
TEL: 06-7636-6124 (9:00~17:30)